

第2回新宿区文化芸術振興会議（第4期）議事要旨

■開催日時 平成29年3月31日 午前10時から午前12時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎地下1階 11会議室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 松井千輝 松島貴美子 的場美規子
大野順二 中島隆太 大和滋 （欠席 市川治郎 舟橋香樹）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 村上文化観光産業部長 橋本文化観光課長 原文文化観光係長 土肥主任
小泉行政管理課長 唯野主任

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事(1)の説明後、(2)のアを説明及び(3)の意見交換を行い、その後、(2)のイを説明及び(3)の意見交換することを確認した。

2 議事(要旨)

- (1) 前回の会議の内容について

資料1-1及び資料1-2に基づき、前回会議(平成28年11月4日開催)の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

- (2) 調査審議事項

ア「新宿フィールドミュージアム2016の実施報告及び新宿フィールドミュージアム・アクション2020」について

資料2及び資料3に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

イ「周辺文化芸術ホールの調査報告及び新宿文化センターの運営の方向性」について

資料4及び資料5、参考資料1に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

- (3) 意見交換

【以降、意見交換】

- ・ボランティア制度について、個々の団体のボランティア活動を促進するような仕組みを投げかけないと目標を達成しない。
- ・目標設定の数値がいいか悪いか科学的にはわからないが、最も大事なはこの年度の目標のために何をやるかという毎年のアクションプログラムの中身である。
- ・参加観覧者数の数え方がぶれないように、有料イベントと無料イベントを別枠にして、

有料は有料だけで参加者数を数えるなど、観覧者数のデータの整合性を取る。

- 30代後半から40代でも音楽や文化はいいことだとわかっていても、何を聞いたらいいかわからないとおっしゃっている。チケットをどこで買ったらいいいかわからない方もいる。
- 大人の入門編などで新しいお客さんを捕まえる。
- 新聞やホームページなど、どのように告知するのが一番の課題である。
- 開催期間を7月から11月に延ばしたというのは、すごくいいことである。無料イベントをいかに増やしていくかというのが課題である。
- フェイスブックの「いいね」の数の目標値500件は少ない。組織的にどういう風にアプローチしていくのか検討が必要である。
- 目標数値は大事だが、数値ばかりに目がいて大きいものをやればいいということではなく、多様な世代に向けていろいろなものがあるというのが大事である。
- 子ども向けの歌舞伎の入門体験などやると、親世代でもこういう伝統ものは知らない人が多く、むしろ大人がすごく興味を示したりするので、そういうアプローチや見せ方が大事である。
- 多様性のあるロゴができているので、それをもっと活用していく。
- ボランティアの件ですけれども、個々の団体に関しては個々でやっていくのが一番だが、広報に関しては若い人を多用して、学生の広告部にもリンクしながらいろいろな世代に届くような広報方法ができるので、そこにボランティアに入ってもらうのも1つなのでないか。
- 目標設定の数字的なものにこだわってしまわざるを得ない気持ちもわかるが、数字よりも満足感というのも大事にしたいと思っているので、内容をどんどん充実していくことのほうが大事である。
- 神社仏閣は多分イベントの中に入っていないが、芸能の神様である花園神社などを巻き込んでイベントを行ってもいいのではないかな。日程もあるかもしれないが、酉の市などを入れるといいのではないかな。
- 認知度アップの件で、インフォメーションセンターに大きなポスターを張ると、少しずつ拡散していくのではないかな。
- だんだん拡大していった内容が充実される一方、むしろ縮小的意見として、これは要らないなど、選んでやっていくことを検討することも頭のどこかでは必要である。
- 恒常的にずっとやっているような、長期的に考えたほうがよい活動もある。美術館とか博物館もあるが、図書館が入っていない。
- 情報の多言語化について、ガイドブックには日・英だけではなくて、中国語なども欲しい。
- ガイドブックの宣伝場所について、区内は専門学校が多いので、そこも振興のための対象として考えるのが必要ではないかな。
- 行政の役割は、ほかのいろいろな団体がうまく活動できるための条件整備であり、例えばボランティアのマッチング、情報を発信するためのプラットフォームとして最初のアクセスポイントをつくる、ロゴをつくり情報発信するということに特化し、ほかの参加団体等が自由に活発に活動できる仕組みをつくることを念頭に目標設定してい

る。

- 行政は評価を受けざるを得ないので、総合計画に寄り添う形で目標値の設定はどうしても必要なものであって、かつ一旦設定すると達成しなければいけない。
- インスタグラムなどSNSでの拡散を全て行政がやるというのはコスト的にも無理で効率的でないので、ホームページをきちんと整備し、それぞれの団体で必要な拡散をしていく。
- 参加団体は増えているが、参加観覧者をどのように増やしていくのかという課題はある。
- イベント開催時期が7月からとなると、東京の夏は暑いので、夜の開催も検討が必要である。夜中にやるとなると規制緩和していかなければいけないところかなり出てくるので、行政がプレーヤーで入って、行政だからこそできることを行う。
- 最大限に潜在力を引き出すためには、ボランティアやNPOの方などの協力を得なければならないので、そのための仕組みをつくらなければならない。
- 量的な拡大やジャンルの広がりに加え、時間的に期間の拡大もしていったほうがいいと思う。ただし、拡大していくときにどこまで広げていくかという問題がある。
- 期間を広げると同時に、1日の時間を広げて、夜の音楽会として野外コンサートなどができるかどうか。
- 行政が対応すべきところや支援すべきところと、個人・団体の取組みを広げていくところを見きわめてやっていく必要がある。
- 広報はフェイスブックあるいは電子メディアなど新しい広報のツールと、紙媒体のガイドブックやポスターといったもの、どちらも必要である。電子メディアのいいところは、ターゲットを絞って検索できることだが、必要な情報だけが出てきて、隣り合わせの情報が得られない。紙媒体だと直接必要な情報プラス周辺の情報が得られる。
- 数値目標は掲げておいて、中身を充実させて、結果として目標値を出す。
- 区報にいろいろなイベントが載っていて申し込む際、往復はがきで申し込むことが多い。QRコードがあればタイムリーに申し込めるが、往復はがきを買いに行っていざ申し込むという時間を取るとやはり申し込まないということが多い。一方でスマホを持っていない世代もいるので、申し込み方もいろいろな方法が用意されるとよい。
- 開催時期が7月から11月となると、ガイドブックに全て入れるのは大変な情報量なので、チラシを増やして月々のサブガイドブックみたいなものを作るのはどうか。
- 新宿文化センターの設置目的は音楽ということで、ホールのハードを見ると舞台の天井が高くて、効果上はクラシック音楽をかなり想定してつくられている。どこかで建て直すのかそんな時期が来るまでいかに使っていくということを考えると、音楽を中心に考えていくことが他の地域との関連性を含めていいと思う。
- 区外でいろいろと新たな施設ができていく中で、新宿文化センターはどうしていくのかという1つの明確な方針を定めたほうがよい。
- ホールの貸し方について、新宿区は区民優先という発想になっているが、ほかのところはそのホールの目的に合わせて、その専門分野を優先するというやり方を取っている。設置目的及び施設のハードの仕様に合った大きな方針と運用基準ということをつくっていくべきである。

- バレエのニーズが少し増えてきている。またポップスの関係者に聞くと運用ルールが厳しいところがあって押さえにくい。今ホールが足りない中で、新宿のまちの特徴を押さえると、ポップス系が使う場になってくる可能性はあるし、そういう方針を持った貸館と自主事業を設定していくというのが、新宿の特徴を出していくことになるのではないかと。明確な方針をそろそろきちんと出す時期になっている。
- 開館が昭和54年ということで、建物の安全性が気になる。
- 文京シビックと杉並公会堂に関しては、文京シビックはとても稼働率もよくて、プロの団体と使用提携の協定を締結している。文化センターもプロの団体と事業提携しておいたほうがいい。
- バレエが今すごく伸びているとので、舞台上はよくわからないが、会館としてはバレエにすごく向いていると思う。戦略的にはどこかバレエを捕まえておいたほうがいいと思うし、バレエには音楽がつきものですので、音楽にも使える。オーケストラピットも立派なので、バレエの人たちは喜ぶのではないかと。
- アドバイザーのような専門的な方を置いた方がいいと思う。
- 文化センターと関係の薄かった20代・30代の方たちへ知名度を高める「新宿ファッションフィールド」というのが紹介されているが、知名度を高めたとしても、有料のコンサートなどに足を運ぶかというのは非常に疑問である。
- 「新宿ファッションフィールド」を見たが、大ホールの使い方がなっていないくて非常に残念だった。大ホールの舞台上でモデルさんの衣装のディテールやヘアメイクが、細かく見えない。せめて舞台スクリーンに映し出すとか、客席にランウェイとかをつくってモデルさんが歩いているのを見るとかしないとお客様も一緒になって楽しめない。
- 子ども連れで見ても非常に舞台が遠いので、見にくいなというのは常に感じている。
- 新宿文化センターをもし建て替えるのであれば、大ホールというはもちろん残していただきたいが、もっと多様に対応できる施設であってほしい。一般の人たちが使用しやすいように中規模のものを1つ残すというのも、小規模なホールを隣り合わせて組み合わせるような、いろいろと自由にレイアウトできるようなホールにすると、もっと使い勝手がいい。
- クラシックのホールとして、パイプオルガンも使ってやってきているので、このホールだったら音楽を聞きたいというような形があったほうがよい。
- 「踊りの祭典」はすごい集客率なので、それも特性だと思う。
- 「はじめてのおんがくかい」は大きなホールで遠くから音楽を聞いていても子どもにとっては何の臨場感もない。親も泣いたり飽きたと言われるとどうしようと思って、また来たくなるものにはなっていない。もうちょっと入り口を下げるというか、ちょっとアプローチの仕方を変えてもいいと思う。
- 建物は古いので、いっそのこと、古いことを売りにできるものを考えてしまうというのも1つの手ではないか。せっかく音楽を聞きに行ったり何か楽しいことをしに行くのに、残念なことに文化センターは入ったときのわくわく感とか、何かを見ようというときにスイッチが入るところが全くない。
- スクリーンを使うということもすごくいいと思う。

- 区の運営方針を見直すことも必要である。大ホールと小ホールがあるので、大ホールのほうは企業優先で小ホールのほうを区民優先というような方針を出すのもいいのではないか。
- 多様な演目ができないのがむしろ特色だろうと思う。
- マネジメントについて、体制も含めて、明らかにPDCAサイクルが回っていない。特に小ホールの稼働率が非常に低い。使い勝手がいいはずの小ホールの稼働率のほう下がっている。
- 指定管理の期間はその実行がなされていればそのまま継続するので、今の時点で手をつけることができるのは、毎年の事業評価でちゃんとマーケット分析をした上でチェックすることである。
- この施設自体を新宿区の文化拠点としてどう位置づけるか、次期指定管理も見据えて、区としてどういうふうに運営していくのかということを早目に決定して、次の指定管理のときにどういう形で運営するのかということを示すロードマップが必要である。
- どういうところに貸すのかということプロジェクトできるような機能も必要である。バレーは狙い目ではないか。マーケットニーズはあるけれども、施設が不足している。
- 運用に関して、かなりきちんとした方針が必要である。文化芸術振興会議で決めるのか、あるいは運営委員会をつくるのか、アドバイザーを専門の方に頼むのか、何らかの運営マネジメントの体制を整える必要がある。
- 運営のためのアドバイザーコミッティあるいは委員会、個々のアドバイザーのようなものが必要である。
- 東新宿から行くと文化センターの場所がわかりづらい。まちとの関係もきちんとやったほうがいいのではないか。
- 本日の議論を踏まえまして、専門部会で議論して、それぞれということが考えられるかという案を示し、それに基づき次回また議論したい。

3 事務連絡等

次回の会議は6月～7月頃に開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、正午に閉会した。